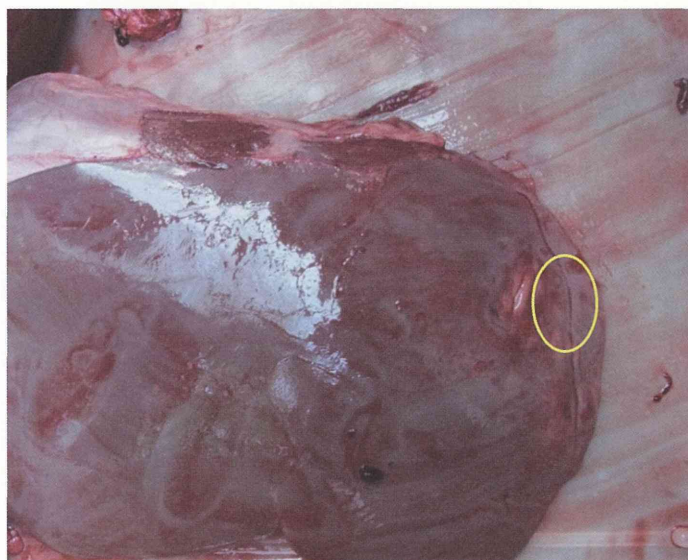
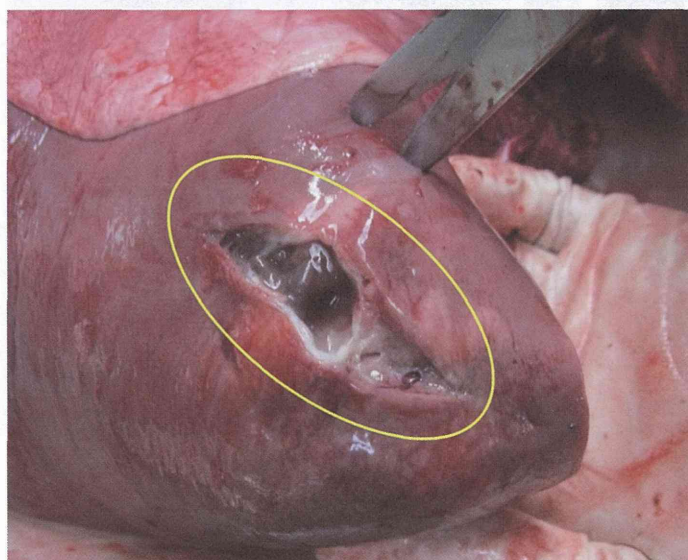
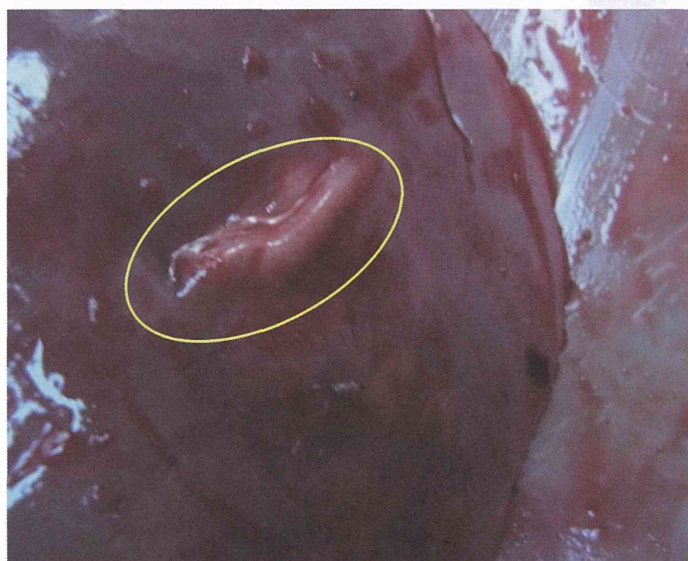


# シカ 肝臓



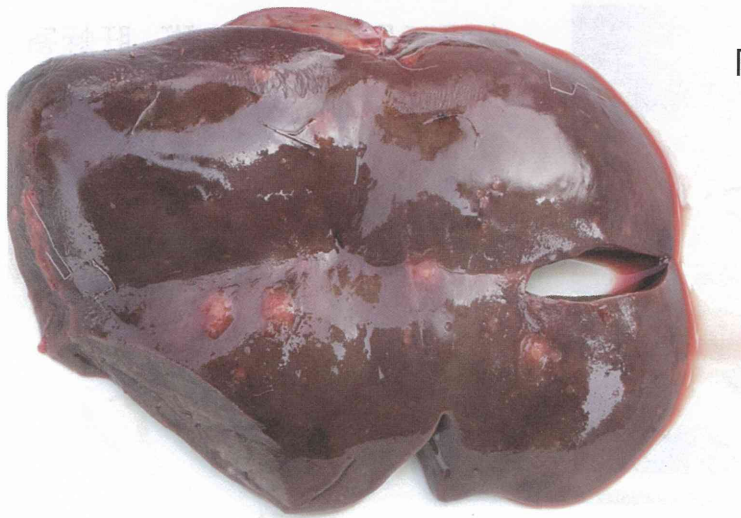
メス、39kg  
肉眼所見：肝臓に白斑、肝蛭寄生。



# シカ 肝臓

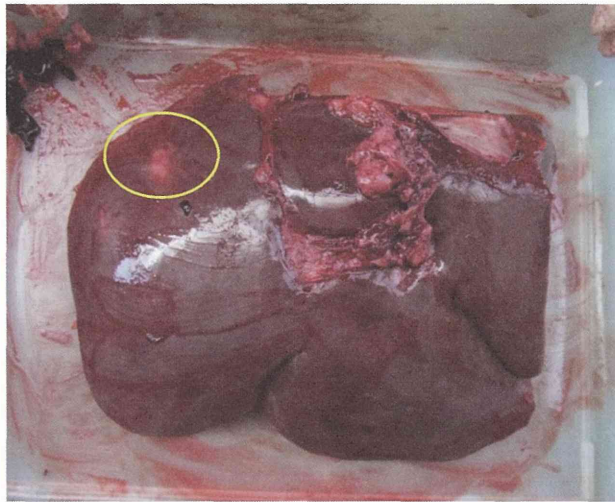


オス、17.5kg  
肉眼所見：肝臓に白斑、肝蛭寄生。



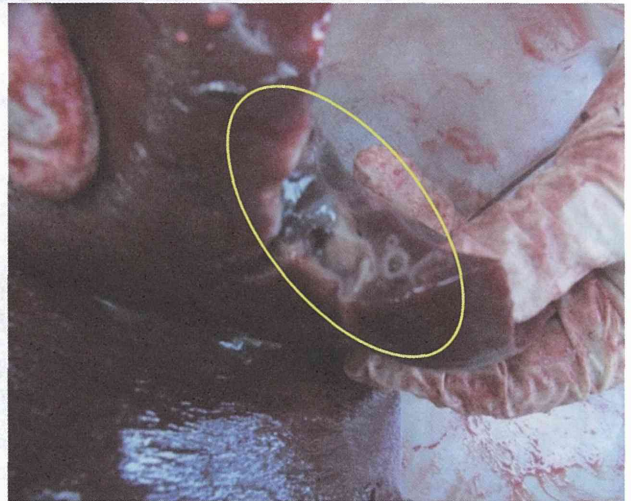
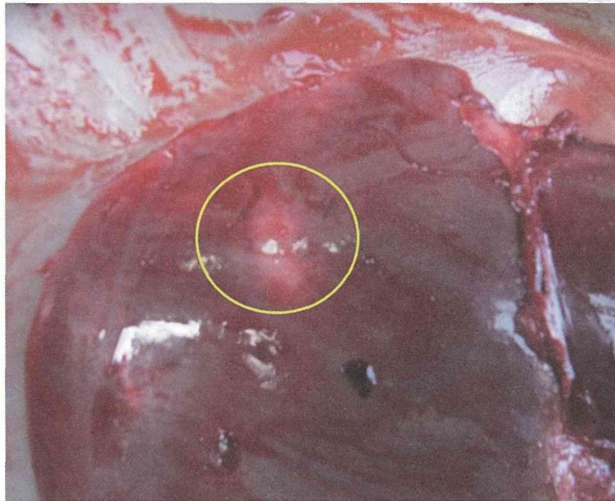
肉眼所見：肝膿瘍。

# シカ 肝臓



オス、68kg

肉眼所見：肝臓に白斑、肝蛭寄生。



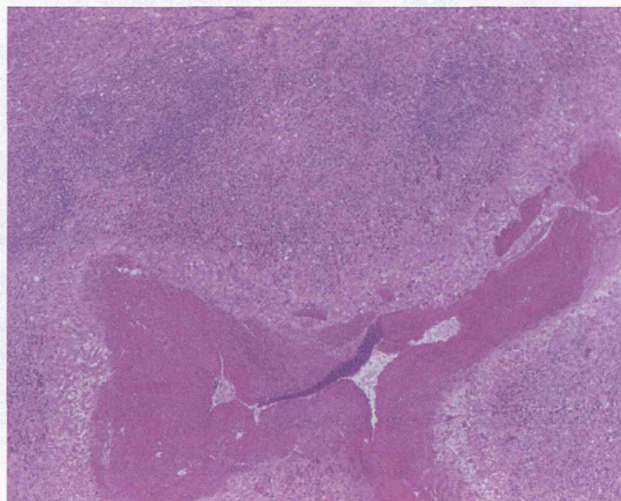
肉眼所見：肝臓に白斑、肝蛭寄生。

# シカ 肝臓

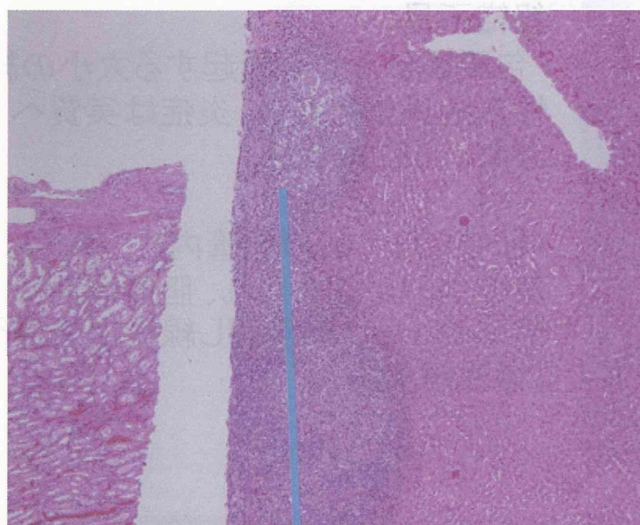
メス 56kg



肉眼所見：肝膿瘍。



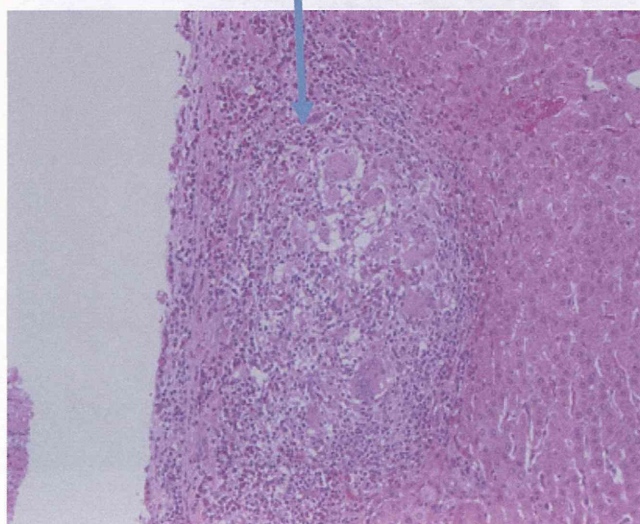
組織所見：好酸球性の肝膿瘍。



オス 41kg

組織所見

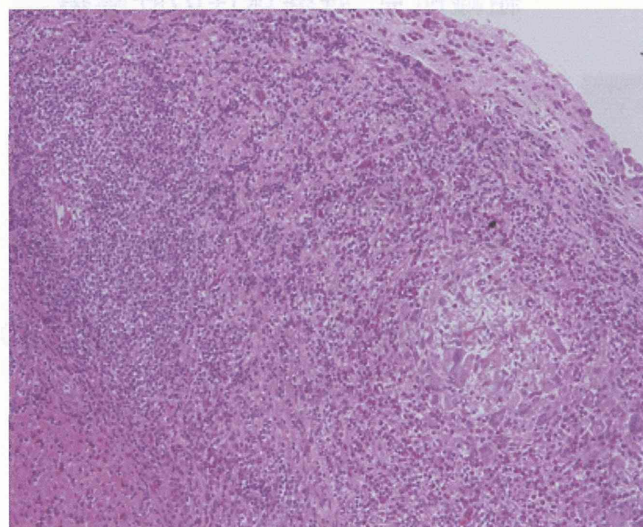
・一部の漿膜直下の実質では、中心部にマクロファージや多核巨細胞浸潤巣を含み、周囲にリンパ球や好酸球浸潤、さらにリンパ濾胞の形成を伴った巣状病変形成。



# シカ 肝臓

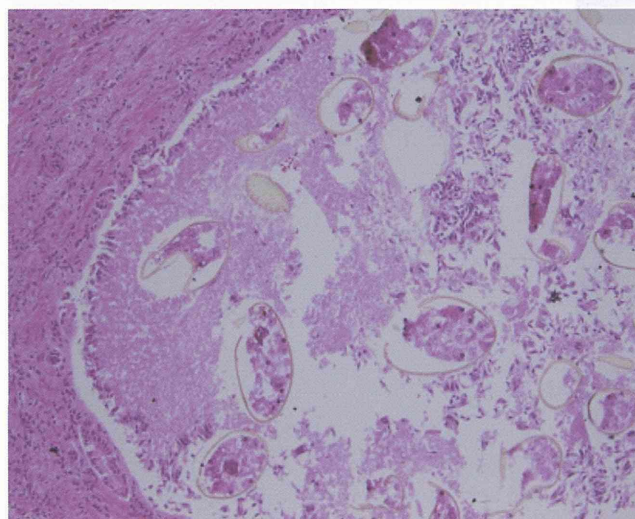


メス 17kg  
肉眼所見: 白色斑散在。



同上  
組織所見  
・包膜面からやや隆起する大小の結節性炎症病巣散在し、炎症は実質へ一部波及。(肝包膜炎)。

・拡張した一部の胆管内に、変性した多数の虫卵が認められ、胆管周囲には好酸球やリンパ球浸潤し線維増生伴う(慢性胆管炎)。

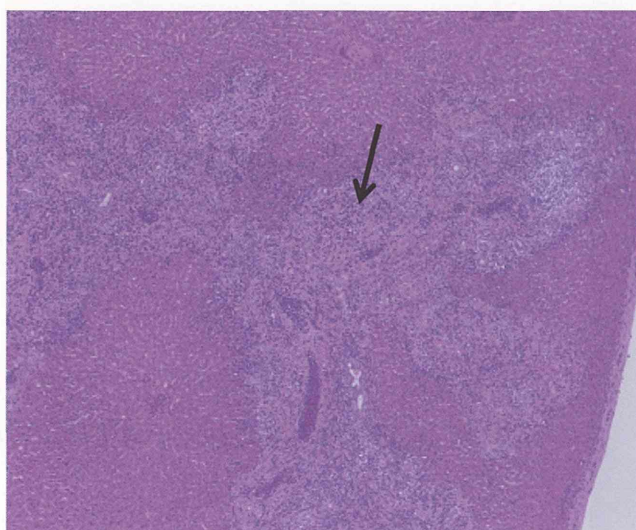


# シカ 肝臓



メス 26kg

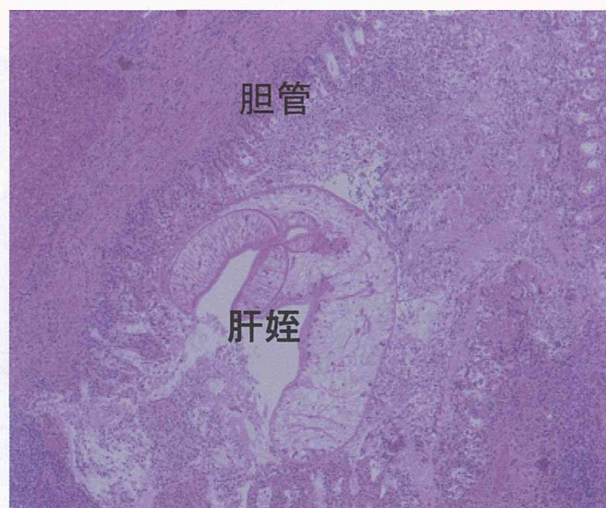
肉眼所見: 白色結節および肝蛭の寄生。



同上  
組織所見

・全体のグリソン鞘領域に顕著な炎症巣が広がり、複数のグリソン鞘同士が互いに連絡し肝小葉の分画化に伴う(間質性肝炎)。

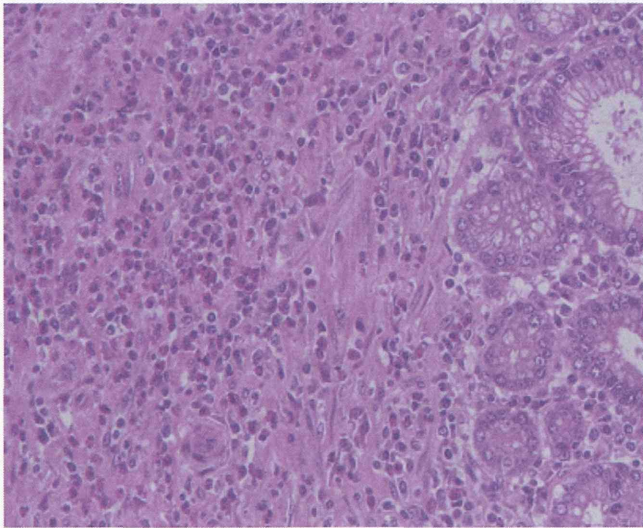
・拡張した複数の胆管内に肝蛭寄生。胆管上皮は過形成性に肥厚し、粘膜固有層から粘膜下組織にかけて好酸球が浸潤、彌慢性に線維化を伴い、リンパ濾胞散在。



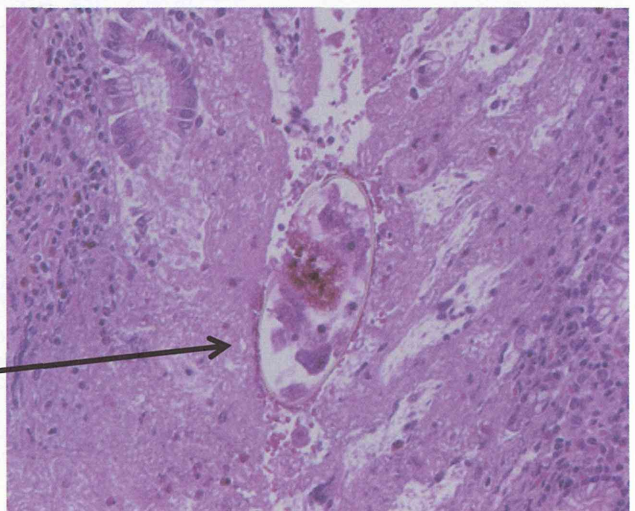
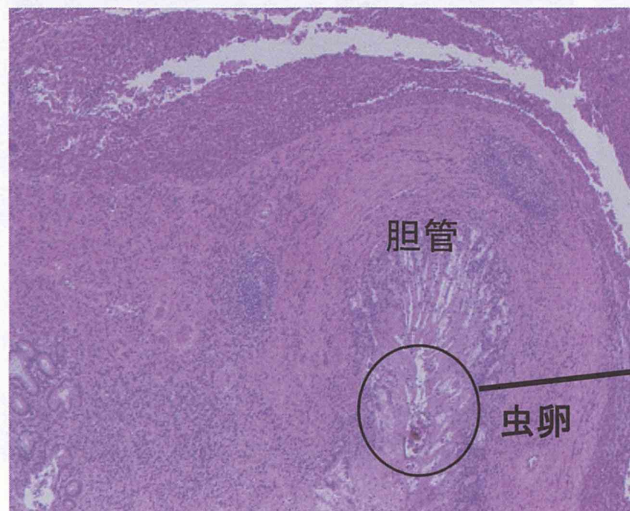
# シカ 肝臓



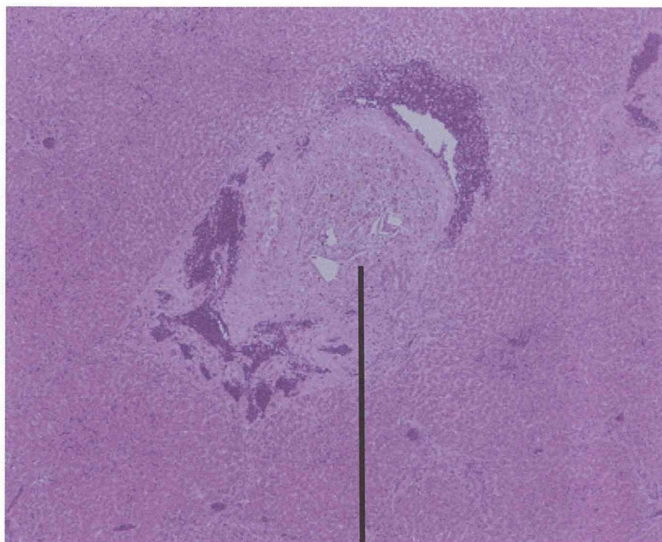
オス 22.5kg  
肉眼所見: 白色結節、肝蛭の寄生。



同上  
組織所見  
・粘膜固有層から粘膜下組織にかけて好酸球浸潤、またマクロファージや形質細胞の浸潤も伴いながら胆管周囲領域は線維性に拡大。  
・一部の拡張した胆管では、内腔に虫卵を認め、胆管上皮は過形成性に肥厚。



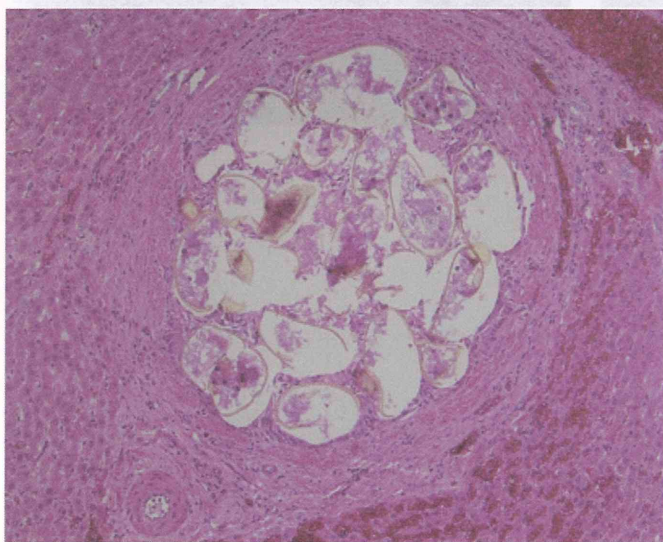
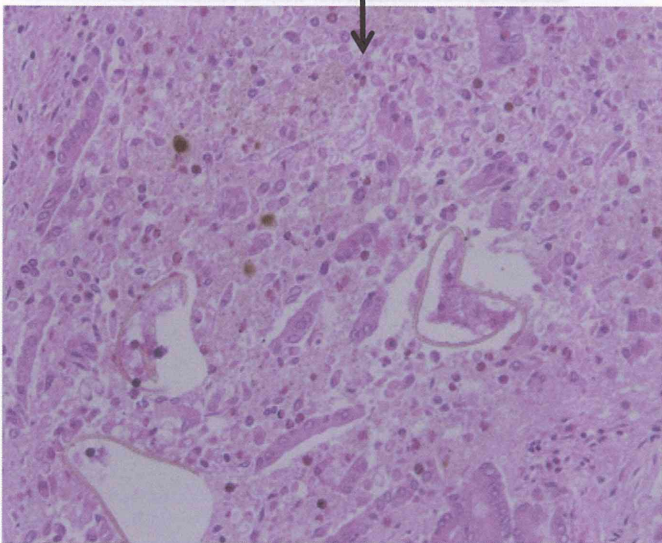
# シカ 肝臓



オス 36kg

組織所見

・一部の胆管内に変性した虫卵の残骸が認められ、胆管上皮は壊死剥離。



オス 30kg

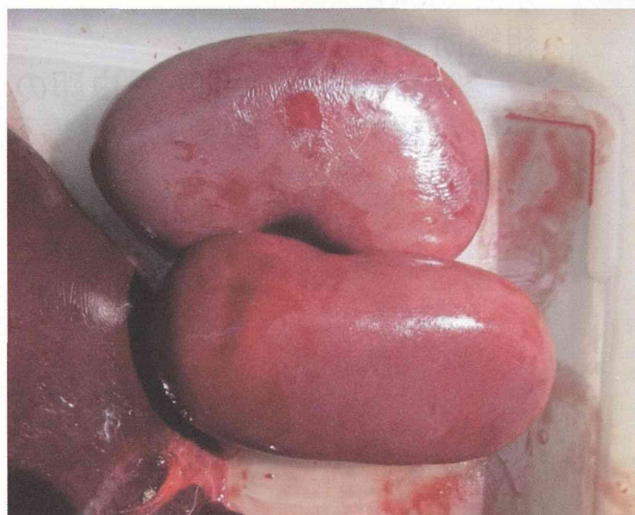
組織所見

・胆管内に変性した虫卵(肝姪卵)が多数充満。



# シカ 腎臓

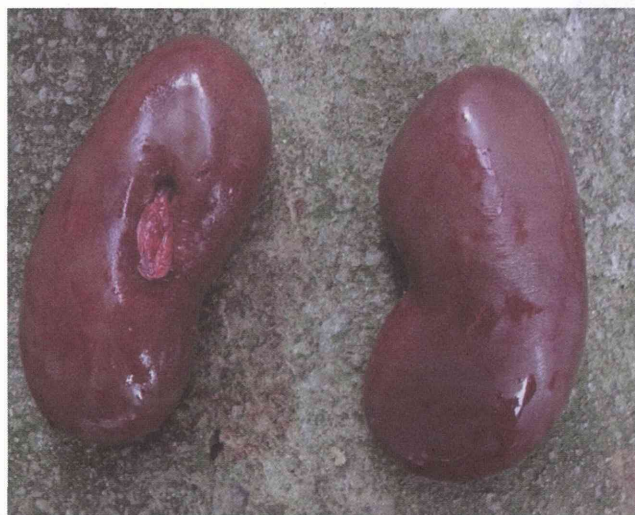
オス、23.5kg



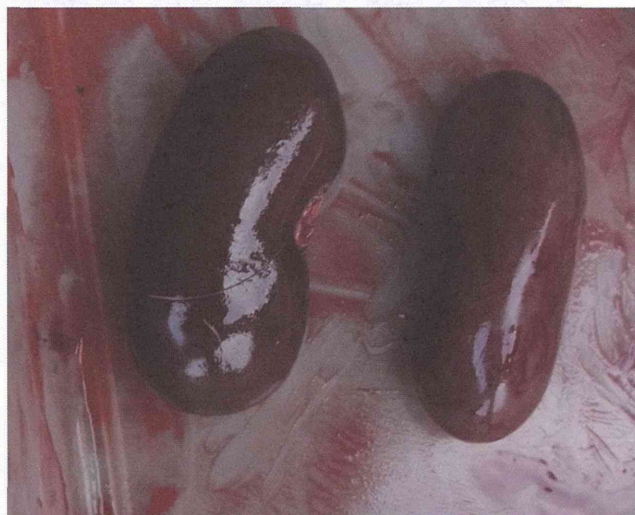
メス、44kg



オス、38kg

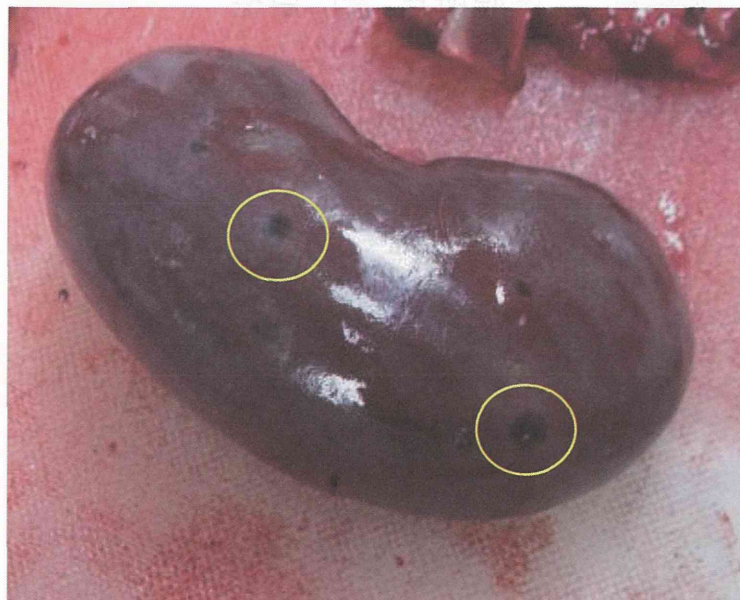


オス、54kg

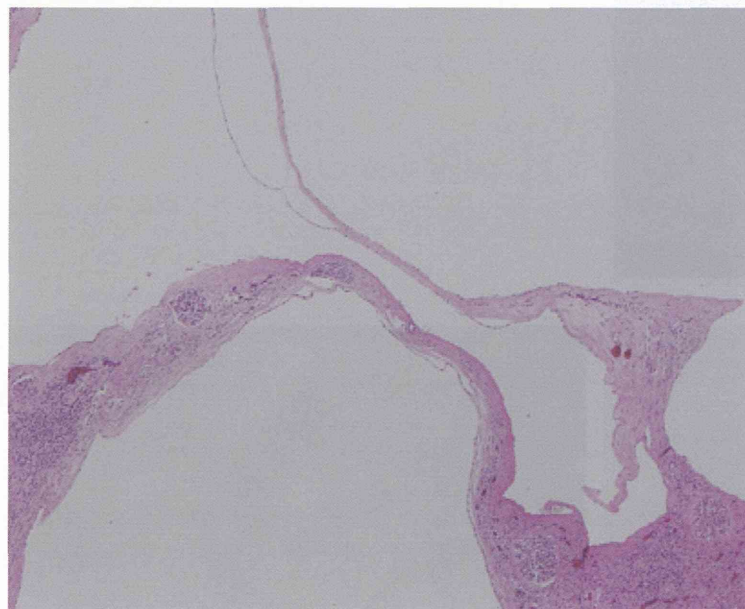


肉眼所見：著変なし。

# シカ 腎臓

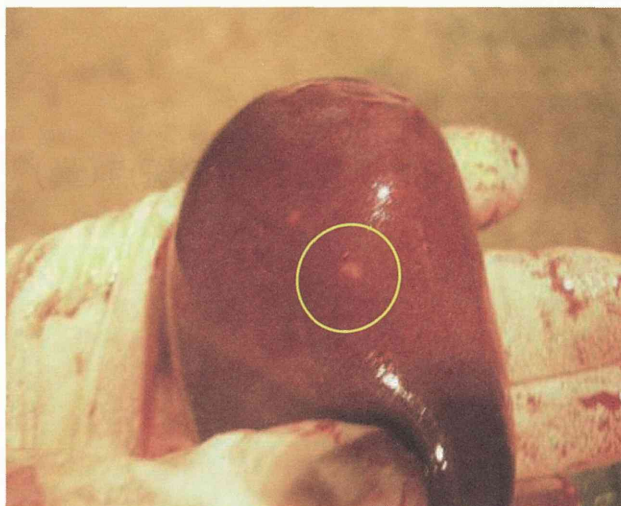


メス、50kg  
肉眼所見：黒色の斑点(嚢)



同上  
組織所見  
・皮質に立方上皮で覆われた複数の嚢胞形成あり、嚢胞周囲は結合組織で覆われ、周囲の尿細管や糸球体はやや圧排されている。(腎嚢胞)

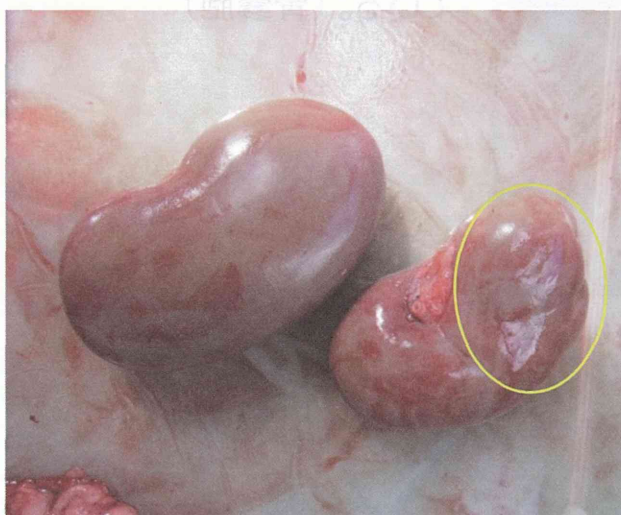
# シカ 腎臓



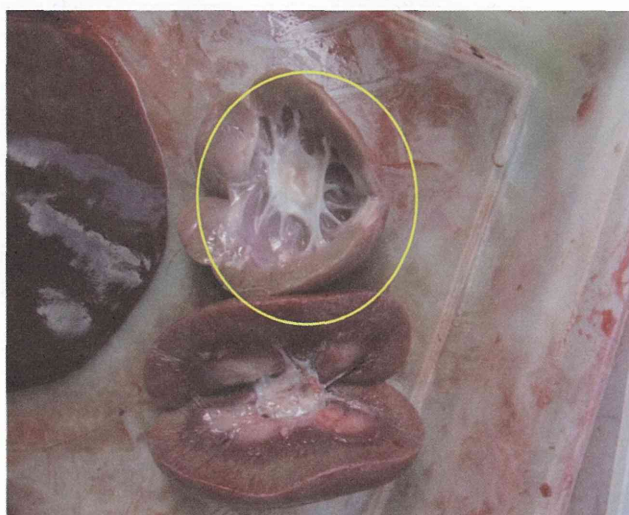
オス、65kg  
肉眼所見：腎に白斑



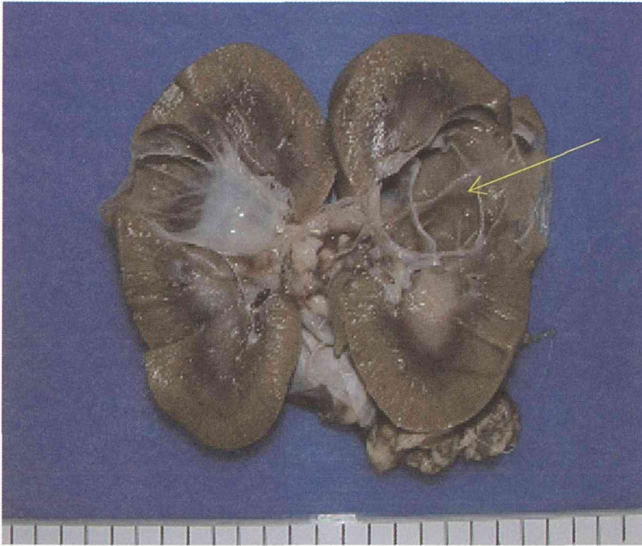
メス、推定25kg  
肉眼所見：腎臓に腎虫の寄生



メス、34kg  
肉眼所見：腎臓の異形成



# シカ 腎臓



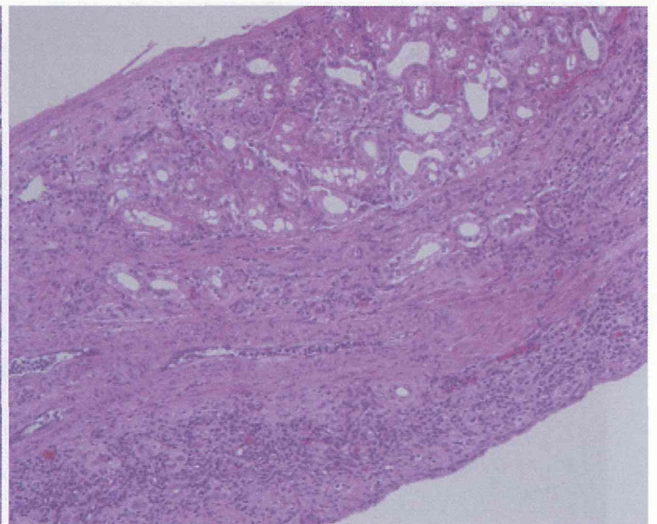
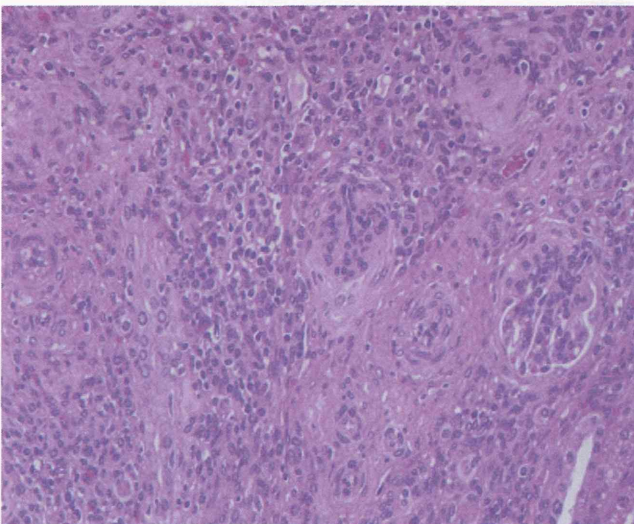
オス 22.5kg  
肉眼所見:水腎症。



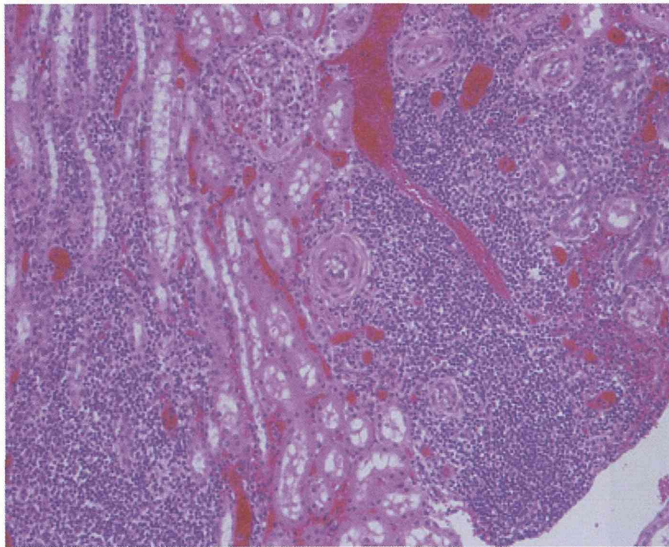
同上  
組織所見

・腎盂の著しい拡張により、全体的に髓質も皮質も共に菲薄化。尿細管は萎縮気味。

・重篤箇所では、髓質構造が完全に消失し、リンパ球浸潤伴った線維化巣で置換され、また皮質でも尿細管は消失し、硬化した糸球体とリンパ球浸潤を伴った線維化巣のみが残存する(水腎症)。



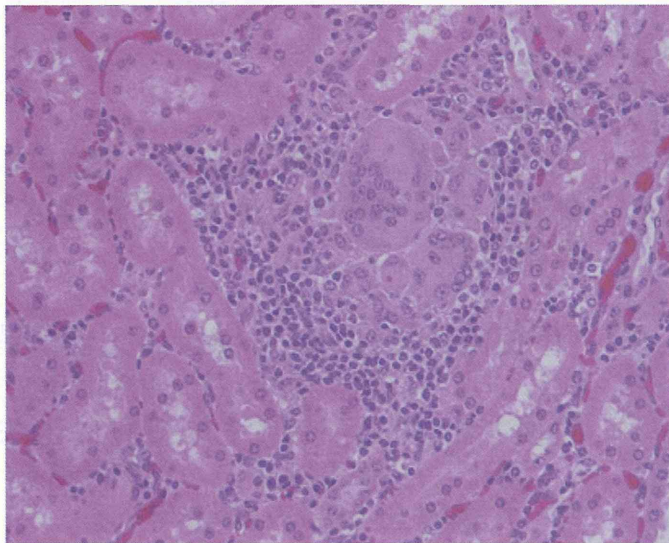
# シカ 腎臓



メス 36kg

組織所見

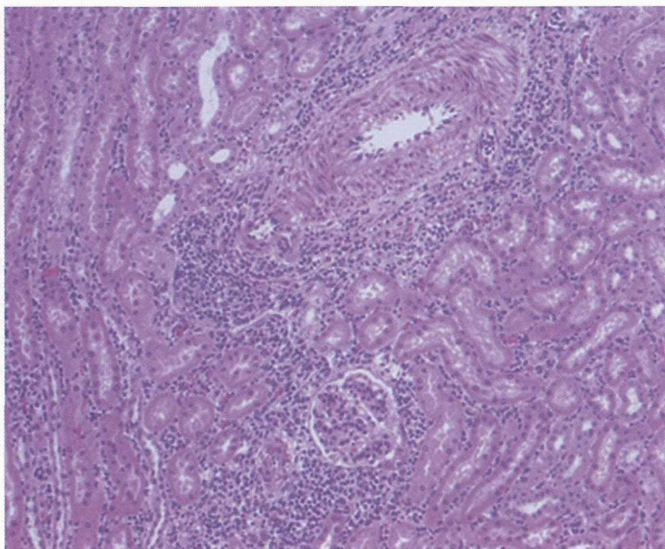
・被膜直下の皮質や皮髄境界部に、尿細管を巻きこんだリンパ球浸潤巣やリンパ濾胞形成あり。



オス 41kg

組織所見:皮質のごく一部に限局して、多核巨細胞浸潤とリンパ球浸潤からなる小病巣形成。

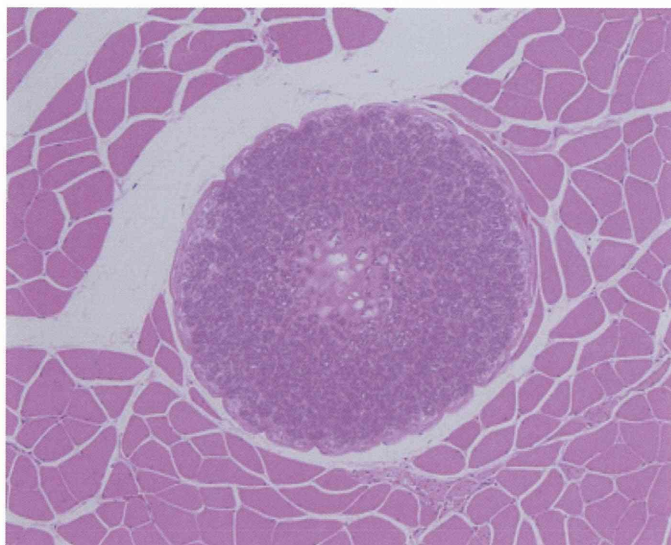
(並背木)



オス 30kg

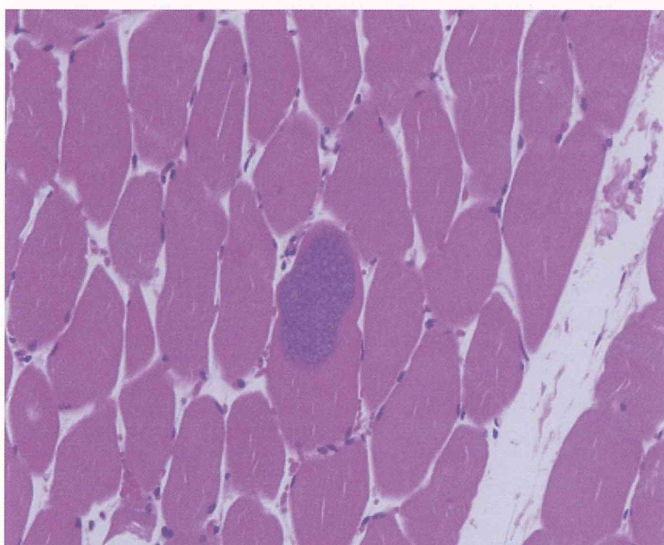
組織所見:皮質間質や小葉間動脈の周囲にリンパ球浸潤巣散在(軽度)。

# シカ 筋肉



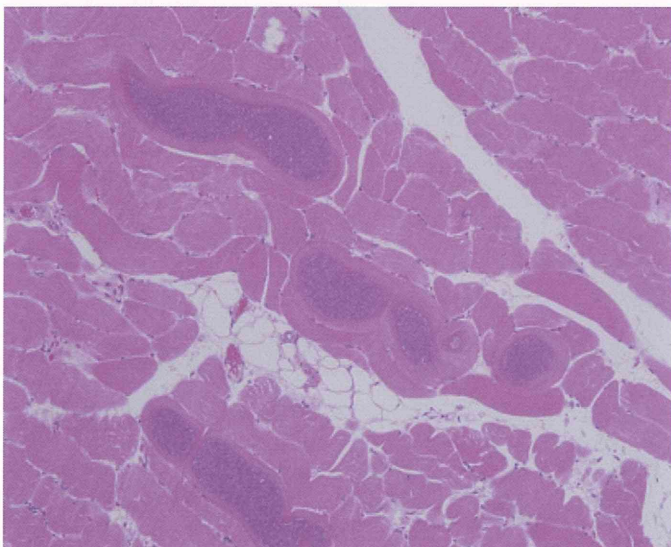
メス 36kg

組織所見:住肉胞子虫の寄生。



オス 30kg

組織所見:住肉胞子虫の寄生。



オス 41kg

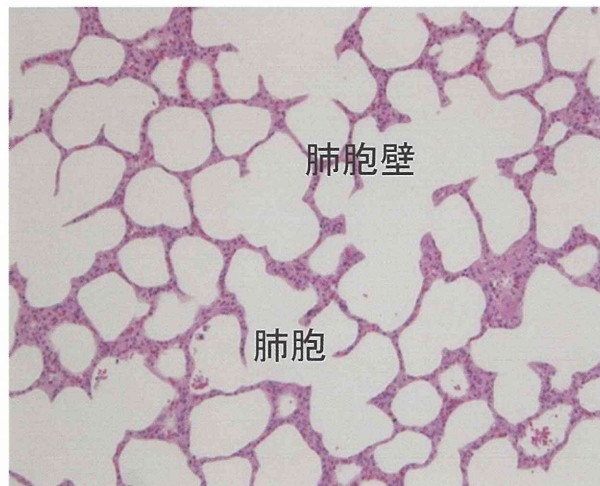
組織所見:住肉胞子虫の寄生。

## <対応>

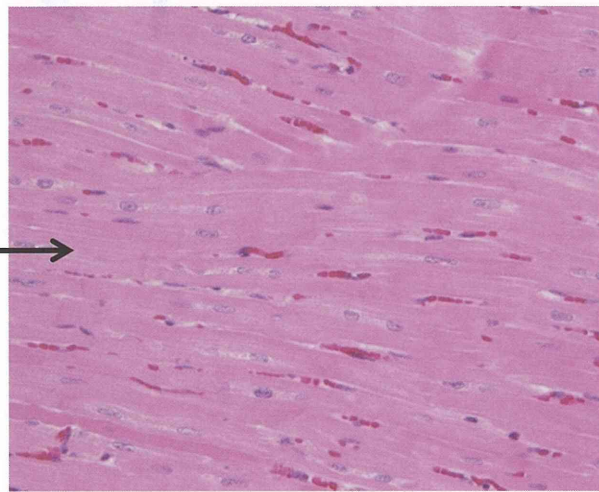
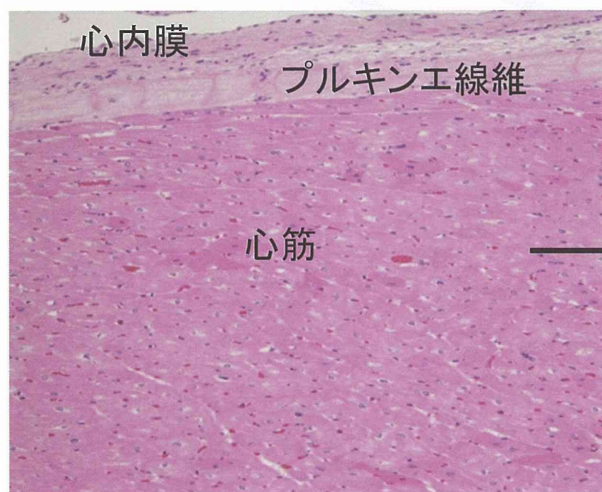
肉眼所見では住肉胞子虫の寄生は判断できないため、食用に供する際には十分に加熱調理する。

イノシシ

# イノシシ 肺・心臓



肺 組織所見: 著変なし。

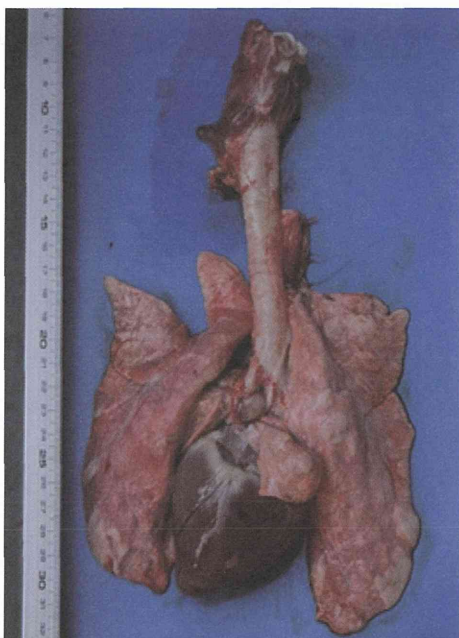


心臓 組織所見: 著変なし。

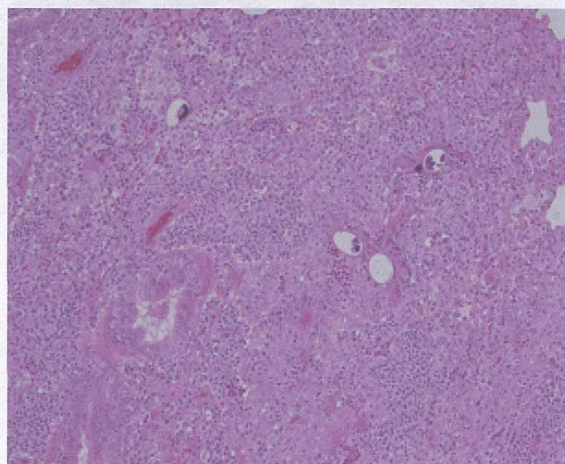
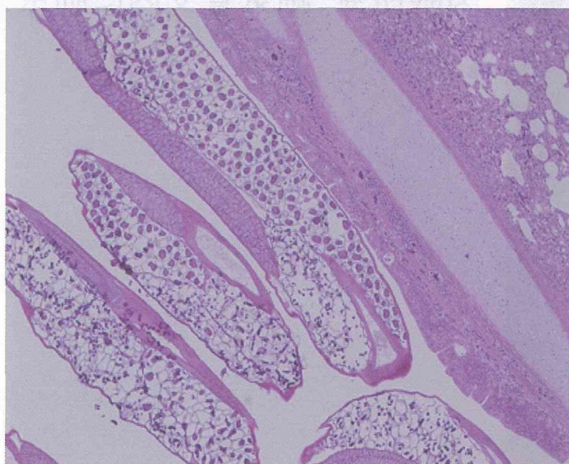
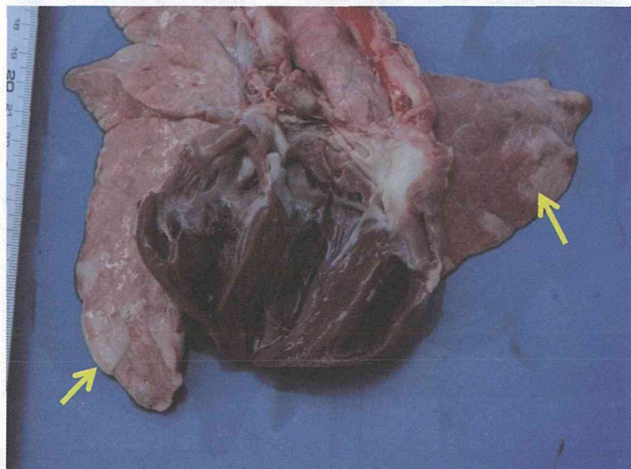
HE染色標本(以下組織所見は特に記載がない場合はHE染色標本を示す)



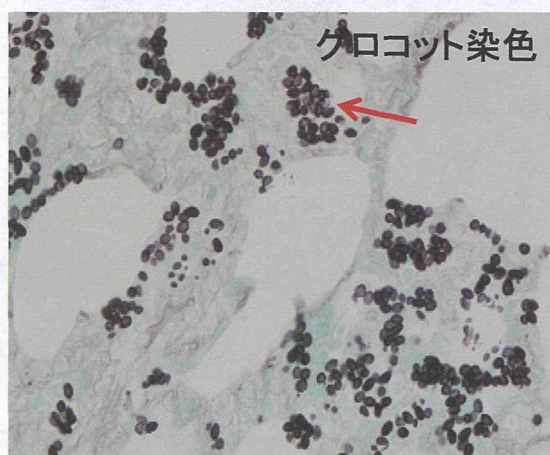
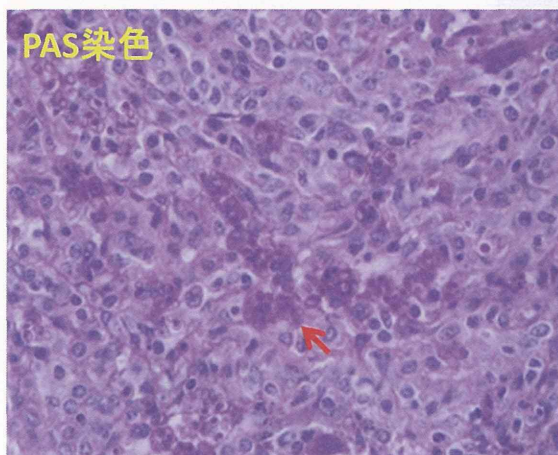
# イノシシ 肺・心臓



オス 推定25kg  
肉眼所見: 肺葉辺縁部の白色変性。

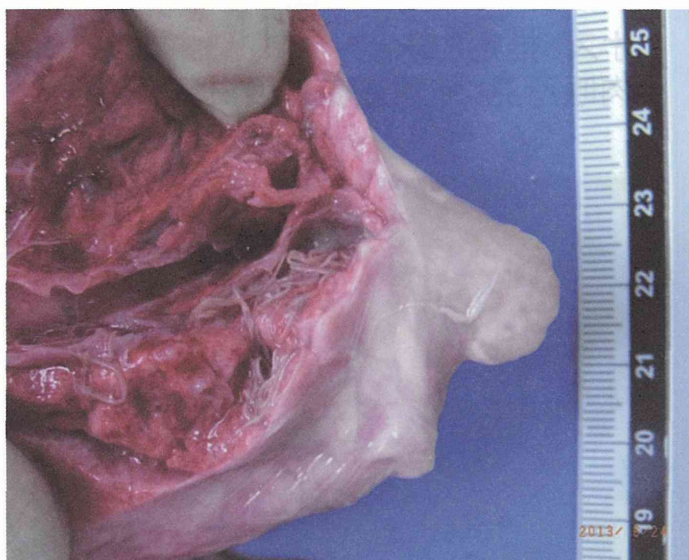


組織所見: 肺の気管支～細気管支に肺虫多数寄生。肺胞実質では子虫や虫卵に対し、リンパ球や好酸球、マクロファージや多核巨細胞を含む炎症病巣散在。



組織所見: 一部の炎症病巣では、PASやグロコット染色陽性の酵母様真菌が散在。

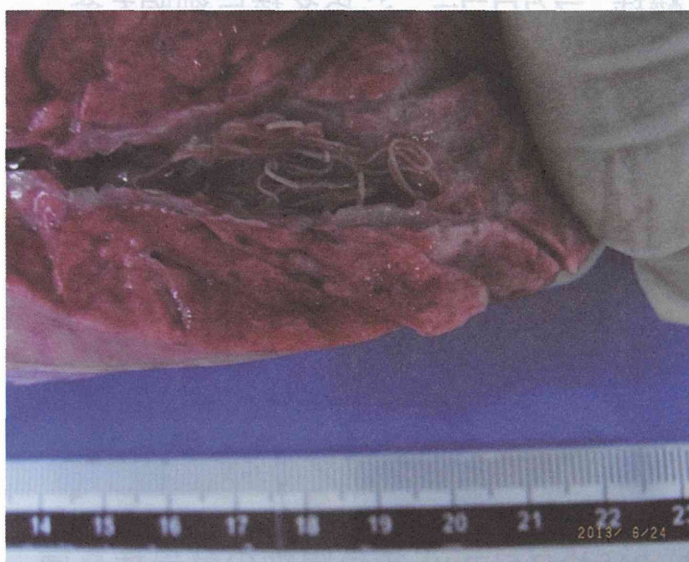
# イノシシ 肺



肉眼所見：気管支内に肺虫寄生。



肉眼所見：細気管支内に肺虫寄生。

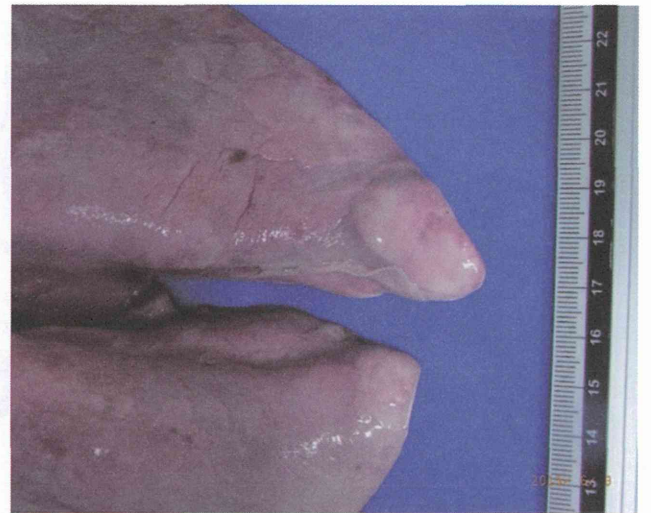
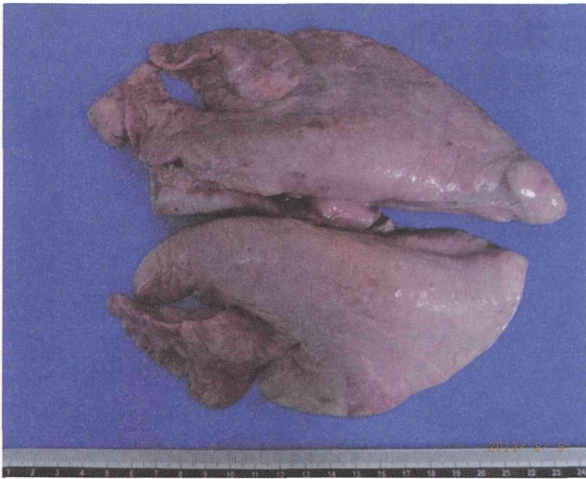


肉眼所見：細気管支内に肺虫寄生。

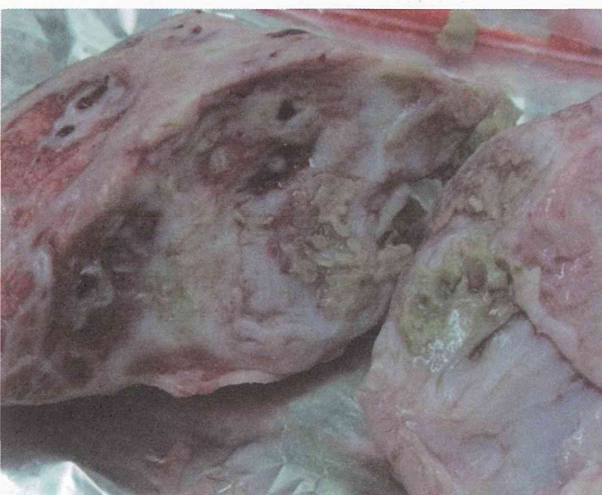
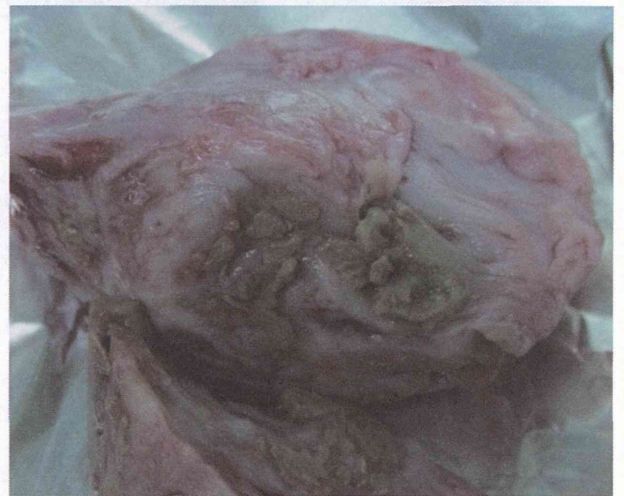
対応：寄生虫濃厚汚染。  
内臓廃棄

# イノシシ 肺

無名腫瘍

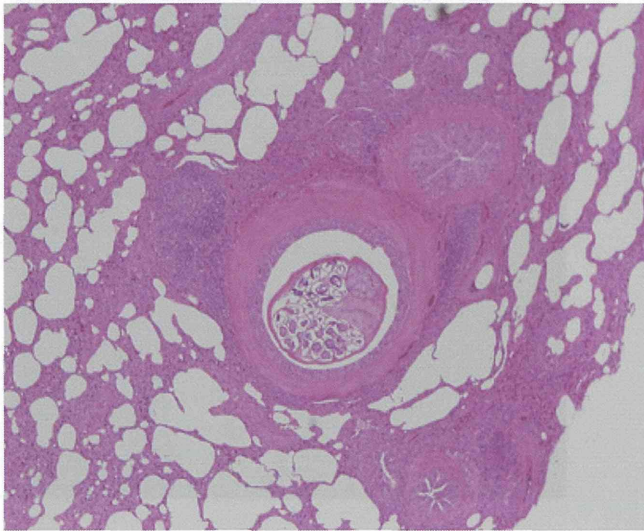


肉眼所見：肺辺縁寄生虫性気腫。



肉眼所見：真菌感染症による乾酪性結節。

# イノシシ 肺



オス 20kg 1歳以下

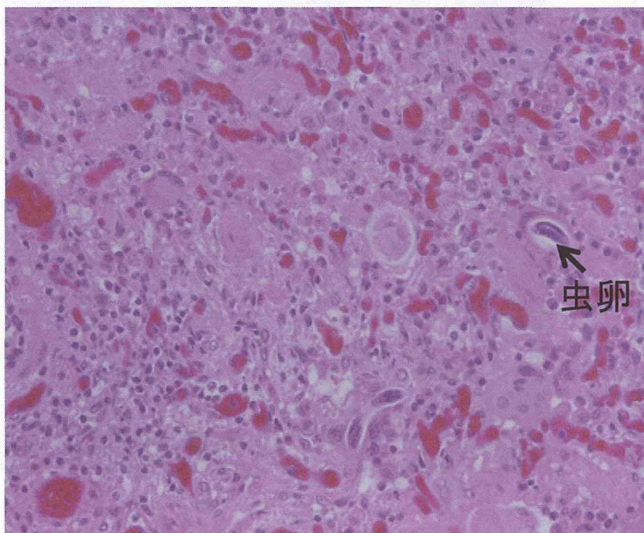
組織所見

・気管支内に肺虫寄生(数は少数)。



メス 33kg 1.8歳

組織所見: 気管支内に肺虫寄生。



メス 44kg 5.8歳

組織所見

・肺胞内では、逸脱した子虫や虫卵が散見され、それに対する泡沫状マクローファージや異物型巨細胞の浸潤を認め、一部の肺胞壁は破綻している。